

平成16年度札幌市総合交通対策調査審議会 第2回議事の要点

- 1 . 全体的な考え方に関して
- 2 . バスネットワークに関して
- 3 . バス路線維持方策に関して
- 4 . サービス、利便性に関して
- 5 . 高齢者や障がいのある方の視点について
- 6 . 高校生及び、自転車利用者の視点について
- 7 . 自動車と公共交通について

札幌市総合交通対策調査審議会第2回 開催概要	
日時	平成16年11月15日(月) 10:00~12:00
場所	札幌すみれホテル 3F ヴィオレ(中央区北1条西2丁目)
議題	「バスの役割と課題について」、「バスサービスの確保について」

1. 全体的な考え方に関して
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は、過疎地域等に比べて圧倒的に高い札幌のサービスレベルに慣れきっているために次から次へと便利さだけを求めているのではないか。 ・バスについては、単に経済、合理性だけで片付けていいのかという部分もある。 ・経済効率性などを重視し、魅力や利便性の向上の工夫が必要な部分と、環境や福祉など、経済効率性では解決できない部分がある。 ・地域の安全性など、バス交通の持つ社会的な役割も踏まえて考える必要がある。 ・バス事業者がビジネスチャンスをとータルで捉え、活かしていくという視点も必要。 ・行政も横のつながりを持ちながら、様々な方策を検討していくことが必要。

2. バスネットワークに関して
<ul style="list-style-type: none"> ・住民にとっての利便性と、事業者にとっての収益性を考えなければ、バスネットワーク体系の確立が難しくなる。 ・年代ごとの目的に合わせた利用や、夏冬の季節的な波動等を複合的に考えて、路線を考えていくべき。 ・自家用車との競合関係を踏まえた札幌市全体の交通体系のあり方を、考え直さなければいけない。 ・環境保全、あるいは混雑緩和にもつながる都心部に対する交通アクセスの規制という課題についての検討も必要。 ・盛岡の事例のように、郊外住宅地の支線バスを集約して、幹線バスに乗り継ぐ形もある。 ・路線設定等の考え方について、事業者から十分に意見を聞くことも必要だ。

3 . バス路線維持方策に関して

- ・現状のバス路線をどのように維持していくかが、現時点での問題。
- ・バス交通の機能、各地域のバス交通への依存などから、維持すべき基準を考えるべき。
- ・まちの機能から路線を評価するという視点が重要。
- ・バス路線が機能を有しているかがポイントだが、他の交通機関等で代えられるのなら、廃止されてもやむを得ない。
- ・バスは、「あって当たり前」「日頃乗ってないががあった方がいい」とよく言われるが、意識転換が必要。
- ・維持方策については、どの手法も誰かが費用負担をする場所がある。
- ・維持策については、最低限何をするのかということや、行政、市民、事業者の負担などを検討する必要がある。
- ・維持方策について各事業者の経営努力も踏まえる必要がある。
- ・自動車など他の交通手段との関係も含め、方向性を考えていく必要もある。
- ・維持方策のプロセスに、住民をどのように参加させるかという検討も必要。
- ・代替交通を考える場合、路線の設定ということが非常に重大な項目になる。
- ・バス、タクシー事業者、市民、市が横のつながりを持って検討していけば、新しい交通手段が産み出せるのではないか。

4 . サービス、利便性に関して

- ・公共交通の料金と自動車の費用とのバランスや、利用者が料金を払うにあたり満足するサービスレベルといった検討も必要。
- ・エコキップの対象範囲を乗務員もわからないという状況があるように、利用時のわかりにくさがある。
- ・結節点の乗継抵抗の改善など、行政もそれ相応の努力をが必要。

5 . 高齢者や障がいのある方の視点について

- ・ 高齢になると、自家用車に頼るとはいかないため、公共交通は大切。
- ・ 交通弱者のうち高齢者の行動範囲は自身の居住地を中心としたものになるだろう。
- ・ 高齢者等のうち足や腰が悪い方にとっては、段差のために、バスや電車が利用しにくいものとなる。
- ・ 高齢者や障がいのある方等の交通弱者に対する配慮が、バスの新たな需要拡大につながるのではないか。

6 . 高校生及び、自転車利用者の視点について

- ・ 子供を乗せた自転車の転倒事故や、高齢者同士による自転車の事故など危険性もあるので、バス路線を大事にすべき。
- ・ 高校生にとっては、自転車の危険性を認識しながらも、費用負担などの点で利用せざるを得ない理由がある。
- ・ 高校通学の路線で収益が厳しくなる場合、行政でカバーしていく必要もある。

7 . 自動車と公共交通について

- ・ 今後は、女性の免許保有率の高まりから、全体の免許保有者が増え、人口が一定であってもバスの利用人員が減少する原因となるのではないか。
- ・ 免許がありながら判断力低下等から運転せず、バスに依存する高齢者も増えるだろう。免許保有率の上昇がバス利用減にそのままつながるか、ということについては検討が必要だ。
- ・ 札幌市内は、自動車が増加する一方、差し迫った渋滞も起きていないため、状況が継続するのではないか。
- ・ 夏は乗用車でも、冬は走行環境の悪化等で公共交通を利用するという場合もある。